

お忙しくても、約 2 分間で読めます

# ハートフル・ワード (心からの言葉)

山内公認会計士事務所

TEL 098-868-6895

FAX 098-863-1495

## 経営者への活きた言葉

自ら変革していくためには格別な努力が必要 (P. F. ドラッカー)

1. これまで組織は、継続を旨としてきた。したがって、企業、大学、病院、教会のいずれの組織もが、チェンジ・リーダーとして変革を受け入れ、自ら変革のためには、格別の努力が必要とする。継続と変革の両方が必要であるが、どちらが必要かと聞かれれば、継続である。人も社会も、本当に必要とするのは継続である。
2. しかし、あらゆるものが腐り、壊れていくという「エントロピーの法則」を逃れえない。したがって、放置したのでは、継続は不可能である。継続のためには変革が必要である。こうして今日まで、ほとんどあらゆる組織が、変革の担い手として、チェンジ・リーダーたることを求められるようになった。もちろん、チェンジリーダーになったとしても継続は不可欠である。
3. 継続は、他の組織との関係においても必要である。迅速な変革のためには、組織の内部における諸関係とともに、外部との関係においても継続が必要である。チェンジ・リーダーにとっては、変革が常態であるだけに、とくに基本を確立しておかねばならない。 (参考:「週刊ダイヤモンド」2010年7月10日号)

## 経営者のための理念・哲学

決断の真の意味

芳村 思風 (思風庵哲学研究所所長)

1. 永遠に変わらない万古不変のリーダーの条件というものがあります。その1つは決して逃げないこと、受けて立つということです。そのためには、問題の前にたじろがない精神が必要です。古来、優れたリーダーは決して問題を恐れなかった。
2. その次に大事なことは、決断に懸け、あれこれ考え迷わないことです。「断」の力が必要です。リーダーにはこの断ち切る力が絶対に必要です。間違いやすいのは、決断とは多くの可能性の中からある一つに決めることだと思っっている人が多いけれど、そうではない。決めた限りはほかへの思いを断ち切る、これが決断です。断ができて初めて不撓不屈の意志が固まるのです。

(参考:「致知」:2010年10月号)

## 幹部への活きた言葉

礼儀正しさは最大の攻撃力

佐々木 常夫 (東レ経営研究所特別顧問)

1. 私は「礼儀正しさは最大の攻撃力」と考えています。人に会ったらきちんとあいさつをし、人に世話になったらすぐにお礼を言う。礼儀正しい対応をしていれば、好感を持たれ、何事もやりやすくなるということです。新入社員に言うようなことですが、課長になっても同じです。
2. リーダーとは、人間の基本的なことが、きちんとできる人です。「あいさつをする」「ウソをつかない」「間違ったことをしたら勇気を持って謝る」といった、基本的なことができる人は人間力のある人で、人に信頼されるリーダーになりうるでしょう。人に対し、いつも心を開いて受け入れられる人、自分に謙虚な人、そのような人は周りの人を引き付け、組織をまとめ上げていくリーダーではないかと考えます。

(参考:「週刊東洋経済」2010年7月17日号)

## 古典に学ぶ

物事の本質を把握する

「戸を出でずして、以って天下を知る。まどを窺わずして、以って天道を知る。その出づることいよいよ遠ければ、その知ることいよいよ少なし」

(訳)「老子」という古典にある言葉です。「外へ出なくても、天下の動静を知ることができる。窓を開けなくても、天道の動きを知ることができる。遠くへ出かければ出かけるほど、いよいよ知識はあやふやになる」という意味です。

(参考:守屋 洋「リーダーのための中国古典」:日経ビジネス人文庫)